

平成 24 年 12 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
富岡 洋子

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名：国際協力キャリアフェア 2012
2. 形態：相談対応サービス
3. 出張者氏名：富岡 洋子/山田 留美子
4. 依頼元/主催団体名等：株式会社 国際開発ジャーナル社
5. 実施日時：平成 24 年 11 月 10 日(土) 9 時 00 分 - 17 時 00 分
6. 実施場所：砂防会館 東京都千代田区平河町 2-7-5
7. 実施の内容：

上記イベントにおいてブース出展し、今後国際協力に携わることが希望する来場者に対し、開発協力 NGO として国際協力の現場における活動や、さまざまな活動参加の形態について、相談者の状況に応じた情報を提供した。

8. 所感・効果：

イベントには 597 名の来場があった。ブースには 28 名が訪れ、中でも看護師が 5 名と多く、当法人の保健分野の活動について紹介するとともに、出展していた医療系その他 NGO の紹介を行った。

相談員として一時帰国中であったホンジュラス事業統括の山田を加えたことにより、実際の現場での活動や中南米の現状について、相談者により具体的な情報を提供することができた。また、山田は企業でのキャリアも長かったことから、特に社会人で一定の経験を積み、

これから国際協力に携わることを希望する多くの相談者に具体的なキャリアパスについて参考になるような情報を提供できたと考える。

こういった国際協力に関心の高い層が集まる有料の催しに NGO 相談員を配置する意義を強く感じる一方、NGO の活動内容などについてほとんど知らないという相談者も多く、啓発活動の強化の必要性を感じた。



ブースでの相談の様子
一時帰国中のホンジュラス事業統括が
相談に対応した



ブースでの相談の様子
時間中ほぼ途切れることなく相談者が訪れた



会場の様子
求人情報コーナー



会場の様子
資料展示コーナー

平成 24 年 12 月 6 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
山上 正道

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 企画名 : 平成 24 年度「国際交流・協力の日」
2. 形態 : 相談対応サービス
3. 主催団体名 : 「国際交流・協力の日」実行委員会
4. 実施場所 : 広島国際会議場、平和記念公園 (広島市中区中島町)
5. 実施日時 : 平成 24 年 11 月 18 日(日) 10 時 00 分～16 時 30 分
6. 出張者氏名 : 山上正道
7. 実施内容 :

平成 24 年 11 月 18 日(日)に広島国際会議場、平和記念公園 (広島市中区中島町)にて開催された国際交流イベントの市民団体等活動紹介コーナーにて NGO 相談員ブースを出展し、相談業務にあたった。

来場者数は 6,850 人で昨年より約 400 人減少した。相談員ブースでは 19 件の相談に対応した。
8. 所感・効果

「国際交流・協力の日」は、主に広島市内で国際交流・協力活動を続けている市民団体、企業などが中心となって平成 12 年度から毎年開催しており、今年で 13 回目の開催となる。公演やバザー、ブース出展など、31 の多彩なプログラムに約 70 団体が出店している。イベントの規模は中国地方最大で、来場者数、出展団体数も他県の 3～4 倍となっている。しかしながら、相談件数に関しては大きな差はなかった。質問の内容はインターン・就職やフェンドレイジング、NGO 連携無償基金、大学との連携、各国事情などと多岐にわたっており、特に国際理解教育の分野への関心が高かった。NGO やその活動内容から実例に基づいた具体的な情報を提供できたのではないかと思う。



NGO 相談員 出張サービス実施報告書

1. 出張サービスの概要

団体名：（特活）国際協力 NGO センター（JANIC） / （特活）難民を助ける会（AAR）

出張者： 事務局長 山口誠史（JANIC） / 事務局長 堀江良彰（AAR）

出張サービス企画名：第 27 回日本国際保健医療学会大会学術大会におけるミニシンポ「共創の国の ODA と NGO」

日時：2012 年 11 月 3 日（土） 午前 9 時 20 分～11 時 50 分（2 時間 30 分）

場所：岡山大学 50 周年記念館

参加人数：52 名

2. 実施内容

11 月 3 日、4 日に、岡山大学で行われた第 27 回国際保健医療学会の中で開催されたミニシンポ「共創の国の ODA と NGO」において、パネリストとして出席した。

このミニシンポは、岡山県の実力 NGO である AMDA が主催して、ODA と NGO の連携をテーマに議論を行った。パネリストには、ODA 側として外務省民間援助連携室山口室長、JICA 国内事業部佐藤課長が、NGO 側として AMDA 社会開発機構竹久プログラム・マネージャーのほか、JANIC 山口事務局長と AAR 堀江事務局長の 3 人がパネリストとして出席した。また、AMDA 社会開発機構の鈴木理事長がコーディネーターを、厚生労働省江副課長補佐が指定コメンテーターとして、参加した。

鈴木コーディネーターからシンポの趣旨説明があった後に、山口室長が外務省の NGO 支援の歴史と N 連を中心とした NGO 支援スキームについて報告があり、続いて佐藤課長から草の根技術協力による NGO 支援について報告があった。

続いて、山口より日本の NGO の現状と課題を報告し、その後、NGO の現場の活動として堀江がザンビアにおける HIV/AIDS プロジェクトについて、竹久マネージャーからはミャンマーにおける栄養改善や母親グループ活動の支援などが報告された。また、江副課長からは、UNAIDS 在籍時の国連と NGO との連携について補足の説明があった。

各パネリストからの報告の後、会場の参加者からの質疑応答を受けた。

3. 所感及び効果等

国際保健医療学会という、保健医療に特化した学会の中では、本シンポジウムはたいへんユニークな企画であった。NGO の事例については、HIV/AIDS および住民主体の母子保健活動という保健分野の発表があったが、シンポジウム全体としては、保健医療にとどまらず一般的な ODA と NGO との違いやより良い連携のためのあり方などが中心であった。

各パネリストの発表が延びたために、会場との質疑応答やパネリスト同士のディスカッションがあまりできなかったことは残念であったが、普段あまり ODA と NGO の連携に関して関心を持ってこなかったと思える医療従事者を中心とした国際保健医療学会の参加者にとって、新鮮な議論であったと思われる。（山口）

自分自身、発表をしながら、かつ官民それぞれの立場からの発表を聞く中で、NGO と外務省・JICA との関係は 15 年前には考えられなかったほど強化されているということを改めて実感した。ODA の中で日本の NGO の果たす役割は益々増加しており、NGO が「フルキャストディプロマシー」の一翼を担う存在となっている。会場はほぼ満席であり、このテーマに関する関心の高さを感じた。多くの方々に NGO について、理解を深めていただくためにも、今回 NGO 相談員制度を利用して参加できたことは大変有意義であった。(堀江)

以上

【写真】



シンポジウム会場の様子



パネリスト

(左から、竹久氏、堀江氏、山口氏、佐藤氏、山口氏、江副氏、鈴木氏)

平成24年11月29日

外務省国際協力局
民間援助連携室長殿

平成24年度NGO相談員 出張サービス実施報告書

(特活) 国際協力NGOセンター
松原和紀、津島由美子

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

1. 概要

- 出張サービス企画名：国際協力キャリアフェア2012
- 実施日時：平成24年11月10日 9時00分～17時00分
- 場所：砂防会館（千代田区平河町）
- 出張者氏名：松原和紀、津島由美子

2. 実施内容

国際協力キャリアフェアは、国際協力業界での就職・転職を希望する一般来場者を対象に開催されており、当日は政府機関、国際機関、企業、教育機関（大学・大学院・留学）、NGO3団体が出展し、来場者数597名だった。

当センターは相談員ブースに常時2名を配置し、国際協力の分野への就職・転職に関する相談対応を実施した。相談員ブースとは別会場で開催の各種セミナー終了時などは、多くのセミナー参加者が相談員ブースへ移動し、対応をお待ちいただく時間帯もあった。以下、対応詳細。

- ・相談対応件数：約40件
- ・主な相談者層：学生、社会人（同数程度）
- ・主な相談内容：
 - ・NGOという組織全般、働く環境について知りたい。
 - ・当該団体の活動について知りたい。
 - ・NGOに就職するために必要な実務経験について具体的に知りたい。
 - ・国際機関で働くためのキャリアパスのひとつとしてNGOで働くことについてどう考えるか。

3. 所感

- ・相談ブースにいらした参加者の中には、NGOについてよくご存じでない方もおり、そのような相談に対しては、NGO、政府機関だけでなく、当該イベントに参加のさまざまなアクターが国際協力に関して協働関係を持って活動している状況を積極的に伝えるように心がけた。国際協力についての基本的な情報について、広く市民に知っていただける機会となった。
- ・NGOの働く環境（給与、前職、福利厚生）についての具体的な情報を求める相談も多く、当該団体が昨年度行ったNGOに関する調査結果を元にした裏付けのある情報を提供することができた。
- ・医療関係の活動に関心がある参加者から、医療系の資格についての問い合わせを受けることもあり、当イベントに参加の医療系のNGOブースを紹介した。日頃からの相談員同志の横のつながりを活用した対応が行えた。

今後も継続的に本イベントのような場で、NGO・国際協力分野で働きたいという一般市民の相談に対応することにより、国際協力についての情報を伝えることは、本出張サービスの重要な役割と言える。

相談対応の様子



平成24年12月8日

外務省国際協力局
民間援助連携室 殿

特定非営利活動法人沖縄NGOセンター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容をご報告させていただきます。

記

1. 依頼元／主催等団体名：特定非営利活動法人 沖縄 NGO センター
2. 実施日時：平成 24 年 11 月 10・11 日 9 時 30 分～18 時 00 分
3. 実施場所：JICA 沖縄国際センター
4. 実施内容：「国際協力・交流フェスティバル 2012」会場にて、相談員ブースを設置した。開発教育・国際理解教育に関する相談に応じたり、教材、民族衣装・民族書きの紹介や体験の機会を提供した。また世界のいろいろな家族の写真を掲示し、国の様子や人々の暮らしやたからものを紹介した。参加型ワークショップとして自分の宝物を布を使って表現し、そのワークと作品を掲示し、「地球市民」を感じられるブースを目指し、実施した。
5. 参加者人数：イベント来場者総勢 3000 人
6. 所感及び効果

相談員ブースを設け、相談対応ブース、情報収集のためのコーナーを設置し対応した。JICA 研修生や一般市民、特に親子連れや国際交流に関心のある参加者の来場があった。ブースでは、当センターの活動についての質問、NGO・NPO についての質問を受けた。民族衣装・民族楽器体験コーナーでは、実際に触れて遊んで楽しむ親子連れが多くみられ、世界の国々に関心をもつ会話もうまれた。また、布を使って自分の宝物や夢を表現するワークショップでは、参加者それぞれの想いを自由に作ってもらい、それを掲示したことで、JICA 研修生や在住外国人、県民のそれぞれの想いを知る交流の場となった。来場者にとって、フェスティバル全体を通して国際理解・国際協力を知り考える機会の提供となった。



地球の様々な家族の様子や NGO 活動、国際協力に関する紹介を行った。

平成 24 年 12 月 8 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター

NGO 相談員による出張サービス実施の報告

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり企画し、実施いたしましたので報告いたします。

記

1. 依頼元／主催等団体名：NPO 法人 Mixed Roots

参加・関係団体：愛知淑徳大学文学部教育学科、岐阜県商工労働部観光交流推進局国際戦略推進課、NPO 法人沖縄 NGO センター

2. 実施日時：平成 24 年 11 月 4 日（土） 13 時 00 分～18 時 00 分

平成 24 年 11 月 5 日（日） 10 時 00 分～12 時 00 分

3. 実施場所：11 月 4 日（土）：カネジュービル会議室（名古屋市中村区則武 1 丁目 2-1）

11 月 5 日（日）：岐阜県県庁会議室（岐阜市藪田南）

4. 実施内容：

（11 月 4 日セミナー）

実際に NPO 関係者に対して当県の日系人および海外に在住する県系人をテーマとした多文化共生および開発教育の取り組み状況をお伝えし、岐阜愛知ではどのような教材作成を行い実施までいけるのかワークショップ形式を進めた。

参加者：愛知、岐阜県内教育関係者、日系人、NGO、NPO 関係者

（11 月 5 日 情報提供、意見交換会）沖縄県における、在日日系人、海外県系人とのつながりを通じた多文化共生事業の取り組み、教材作成、行政との協働事業に関する情報提供および意見交換会を行った。前日とは異なり、具体的な予算規模、市民の反応、その後の継続的な活動及び、協働関係における、行政と NPO との関係性について報告および相談者からの質問に答える形で意見交換を行った。参加者：岐阜県庁国際関係担当者、教員、NGO、NPO 関係者

5. 参加者人数 11 月 4 日 18 名 11 月 5 日 6 名 合計 24 名

6. 所見・感想

全ての条件が同様ではないので、全く同じように進めていくことは困難であると思うが、課題解決の理念および実施方法で参考にして頂ける点があったのではないかと考えている。

協働事業の具体事例を受けて、相談者側の今後の展開も進められるようになったようで、出張サービス後もメール等で進捗等合わせてフォローアップを行っている。次年度からの事業計画に相談員からの意見を受けて新しい展開につながっていったというご意見を頂いたため、今後も継続した連携を模索している。



ワークショップ風景



事例共有風景

以上

平成24年12月8日

外務省国際協力局
民間援助連携室 殿

特定非営利活動法人沖縄NGOセンター

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

NGO 相談員として、出張サービスを実施しましたので、内容を報告させていただきます。

記

1. 依頼元／主催等団体名：特定非営利活動沖縄 NGO センター
2. 実施日時：平成 24 年 11 月 13・16 日 19 時 30 分～21 時 00 分
3. 実施場所：日本文化経済学院
4. 実施内容：地域で取り組む国際理解・国際協力の一環として、地域住民と在住外国人が地域の災害・防災について話し合うことから始め、言語の要支援者となる在住外国人を地域ネットワークの中に仲間として迎え入れるきっかけとして、実施した。在住外国人とサポートボランティアの日本人と一緒にグループワークをする形で進め、1回目は、自然災害に関するお互いの意識共有、「台風」についての基礎知識をクイズ形式で行った。2回目は、地域で安心して暮らすため、防災グッズや避難場所の確認を行った。
5. 参加者人数： 総勢 30 人
6. 所感及び効果：

災害について在住外国人の母国には台風がないことやここで初めて台風を経験した時の恐怖感を共有することから始めた。地域で安心して暮らすための防災グッズや避難場所の確認をしながら、「何かあった時には、連絡して」という声も発生した。在住外国人、サポートボランティアの日本人、双方にとって災害対策への意識を高めるとともに地域にすむ在住外国人への理解が深まり、地域の仲間としてのネットワークづくりにつながったことが効果としてあげられる。



在住外国人と日本人が一緒になってのグループワークで避難所や防災グッズの確認

(特活) NGO 福岡ネットワーク : NGO 出張相談報告書 (平成 24 年 11 月)

(ア) 団体名・出張サービス企画名・実施日時・場所

団体名 : (特活) NGO 福岡ネットワーク

企画名 : 国際協力フェスタ「地球市民どんたく 2012」

実施日時 : 平成 24 年 11 月 10 日 (土) 11 日 (日) 11 時 00 分~17 時 00 分

場所 : アクロス福岡 2 階「交流ギャラリー」、「セミナー室」

(イ) 実施内容

当企画は、福岡を拠点に国際協力・交流に取り組む団体が一堂に会し、その活動を一般市民に紹介する企画である。参加団体はそれぞれブースを設け、団体の活動を紹介するパネルを展示したり、民芸品やフェアトレード商品を販売したり、工夫を凝らしたブースで来場者を出迎えていた。各団体の活動にまつわる問題をブースに設置し、すべてのブースの問題に正解してスタンプをもらった人に商品をプレゼントするというスタンプラリーも行った。

また、他会場（セミナー室）では参加団体によるワークショップ、民族衣装の着付け体験とファッションショー、相談員受託団体であり東日本大震災の支援に取り組む認定 NPO 法人 IVY（出張サービスとしてワークショップも実施した）への寄付となるお茶の販売などを行い、来場者に様々な視点から国際協力・交流を学んでいただく企画を実施した。

当団体は会場の一角にブースを設け、来場者から寄せられる NGO や国際協力に関する様々な相談に対応した。11 月 11 日 (日) は、IVY 事務局長の安達三千代さんと共に相談対応を行った。

(ウ) 集客人数または相談対応件数

来場者数 : 1,000 人 (2 日間計)

相談件数 : 13 件 (2 日間計)

所感及び効果等

本企画にはこれまで毎年参加しているが、会場内のディスプレイや催し物については近年で最も力の入った年となった。出展団体からなる実行委員会で検討、実施した賜物であるが、これにより来場者は視覚と体験の効果により国際協力への理解が深まったものと思われる。

当団体としては来場者には積極的に声掛けを行い、相談のしやすい雰囲気作りを心がけたことで、世間話から国際協力に関する話題に持ち込むこともできた。こうしたイベントに参加する市民は興味関心などが漠然としており、様々な情報を吸収したいという思いが強い場合が多いため、幅広い情報を提供できるように来場者の反応を見ながら話すように努めた。

相談件数そのものとしては決して多くはないが、それ以上の来場者との交流が生まれており、国際協力全般の話題を提供できる団体として出展団体唯一の存在であった当団体の果たした役割は非常に大きなものがあったと実感をしている。



会場の様子



安達さんも相談に応じる

NGO相談員による出張相談実施報告書

1. 団体名

(特活) 関西国際交流団体協議会

出張者：林泰子

2. 企画名

「和歌山大学祭・ワークカフェ」

(NGO相談員：相談対応サービス)

3. 実施日時

2012年11月25日(日) 9時～17時

4. 場所

国立大学法人和歌山大学キャンパス基礎教育棟前

(〒) 640-8441 和歌山県和歌山市栄谷930

5. 実施内容

和歌山大学祭において、JICA 和歌山デスクと NPO「ワーク・カフェ☆オーナーズ」が共催でブース出展し、多様な生き方や職業の「ゲスト」を招聘して、大学生及び来場者に対し多様な職業選択や生き方に関する情報提供を行った。当協議会は、JICA 和歌山デスク側より、国際協力の取り組みへの理解促進とNGOという職業選択の紹介を紹介するため、NGO相談員に参加が要請された。

NGO相談員としては、本イベントに出席する学生や市民などの国際協力に対する関心の向上やキャリア形成のきっかけ作りを目的とするほか、国際協力およびボランティア、NGO等に関する情報提供と相談対応をすることを目指した。

当日は学生だけでなく、数多くの一般市民も来場した(詳細な人数は「6.」にて後述)。本ブースでは、来場のきっかけ作りのために、フェアトレード紅茶を無料提供し、集客を図った。しかしながら元々国際協力に関心のある来場者はほとんど見られなかったため、相談員としてはただNGOの相談を待つのではなくこちらから話しかけた。フェアトレードの紅茶の試飲をきっかけに、フェアトレードとは何か、どういった取り組みがなされているのかという話題から、NGOを含め日本の支援全般等に話を広げた。留意したこととしては、ただ単なるNGOの説明ではなく国際協力や援助全体の中に位置づけ、わかることはNGOに限らず、臨機応変に説明した。例えば、法曹分野に進むことを考えている中学生には、カンボジアやインドネシアで取り組まれている我が国による法整備支援について説明した。

6. 集客人員

(1) 参加者

<全体>

来場者数：主催者問い合わせ中

ブース出展数：37 ブース
＜ワーク・カフェ＞ ブース来場者数：約 300 名
個別相談対応：合計 77 名

(2) 相談内容

*殆どの参加者に対し、複数の説明を行ったため、本欄総合計は上記対応数とは一致していません。

- ①NPO/NGOの活動について…33 件
- ②ボランティアについて…3 件
- ③インターン・就職について…11 件
- ④スタディーツアーについて…0 件
- ⑥フェアトレードについて…71 件
- ⑦開発教育について…0 件
- ⑧外国事情…8 件
- ⑨ODA政策一般…2 件
- ⑩国際交流について…0 件

(3) 相談者区分

- ①学生 18 名
- ②社会人 9 名
- ③主婦 23 名
- ④中学生 8 名
- ⑤不明 19 名

7. 所感及び効果

1) 導入・きっかけづくり

前述したとおり、導入として今回フェアトレード紅茶を無料で提供したが、このように入りやすい、話しかけやすい環境づくりを工夫することの重要性を痛感した。特段 NGO や国際協力に関心が無い方でも来場いただけ、話をするきっかけになった。

また、今回対応した殆どの方が、「フェアトレード」という言葉や考え方自体を知らなかった。よって「フェアトレード」とは何ぞやというところから、話を始めたが、特段国際協力に関心が無い方でも、抵抗なく入れる話題として適切であったと思料する。

2) 相談内容の奥行き

また前述したとおり単なる NGO の紹介ではなく、国際協力という大きな枠組みや流れの中での NGO という位置づけでとらえ、必要に応じて国際協力に関する情報を提供したが、今後も来場者の関心に臨機応変に対応するため、情報のアップデートを怠らないようにしたい。

3) 来場者向けの企画

来場者に関しては、大学祭とはいえ一般市民や家族連れが多く、次回からはファミリー向けや一般市民向けのアクティビティを用意するのも一案かと思料するため、既に主催者には次年度は早期の段階での協議を提案した。

4) 効果

「5.」で前述したとおり、対応した 77 名の内、殆どの来場者が「フェアトレード」や日本の国際協力の取り組みについての理解に乏しかったが、短時間ではあるもの情報提供することができた。広報効果としては一定の成果があったと思料する。



ブース概観
テント 2 張りが会場



フェアトレード紅茶 1 杯を無料提供して、NGO 相談員を含むゲストと懇談。



相談対応する林 NGO 相談員（左側）



ブース概観

(了)

平成24年12月7日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

認定NPO法人 IVY
(NGO 相談員氏名) 安達三千代

NGO 相談員による出張サービス実施報告

NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

1. 企画名:

(1)【形態:イベント、セミナー】国際協カフェスタ「地球市民どんたく 2012」特別企画ワークショップ及びNGO相談員活動

(2)【形態:セミナー】「今、必要とされるリーダーシップとは」

—自分には何が出来るか。何が必要か。変化する震災後の被災地ニーズを考える

2. 出張者氏名: 安達三千代

3. 依頼元団体名:(1)「地球市民どんたく2012」実行委員会

(2)そらまめ、(特活)NGO福岡ネットワーク

4. 実施日時:(1)平成24年11月10日(土)11:00-18:00

11月11日(日)10:00-17:00

*12:30-14:30はワークショップ、

それ以外はブースにてNGO相談員活動

(2)平成24年11月10日(土)18:00-21:00

5. 実施場所:(1)アクロス福岡 2階交流ギャラリー、ワークショップはセミナー室1

(2)アクロス福岡 6階会議室

〒810-0001 福岡市中央区天神一丁目1番1号

6. 実施の概要及び対象者:

(1)地球市民どんたく2012 及び特別企画ワークショップ「東日本大震災・世界からの援助」

実施概要:前半はワークショップ「世界からの援助」、後半は実際に世界からの援助を受け実施できた当団体の事例を紹介した。また、NGO福岡ネットワーク(FUNN)のブースでNGO相談員活動も2日間いっしょに行い、訪れた多くのNGOや行政、大学関係者等と情報交換を行った。

対象:ワークショップ参加者は福岡市周辺の一市民、NGO、行政、教員等 約20名。イベント全体は2日間で約1,000名入場

(2)東北応援ワークショップ「今、必要とされるリーダーシップとは」

実施概要:震災支援から得た当団体の知見を福岡市民の方々と共有した。また、これからの東北支援と次の大災害発生時の支援する側の動き方を考えた。

対象:福岡市民 30名

7. 内容:

(1)地球市民どんたく2012 特別企画ワークショップ「東日本大震災・世界からの援助」

前半は、DEAR 作成の教材「世界からの援助」を使用。参加者を3つにグループ分けし、グルー

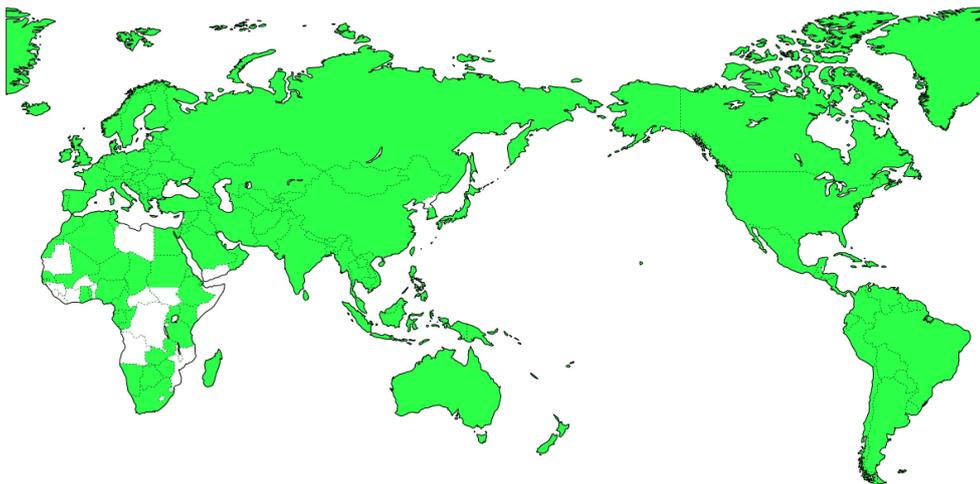
プ内で「スーダン、日本、アフガニスタン、ハイチ、ケニア、この5つの国に共通していることはなんでしょう?」というクイズの答えを考えてもらうことからスタートした。答えは昨年5月時点での被援助国ベスト5で、日本が世界第2位の被援助国だったことが知らされると、参加者からは「世界から愛されていてよかった」「今まで支援してきた日本が報われた」などそれぞれが率直な感想がグループ内で共有されていたようである。次のクイズは「世界の白地図で支援を申し出てくれた国(企業含む)を塗ってください」というもの。これも先進国と言われている国々しか塗っていないやせいぜい半分程度を塗った人が多かったが、答えのスライドが映し出されると、アフリカの数か国を除いて5月25日の時点ですでに157の国が支援を申し出てくれたことが体感できた。

また、「支援表明国のリスト」を配り、それもグループごとに気づいたことについて共有してもらった。「ハイチやアフガニスタンなど自国が大変な国も支援してくれている」「お金があるなしに関係なく、困っている人を助ける文化が根付いているのかな」など意見が交わされた。

そこで、参加者が「援助してくれた側の人たち」に関心が向き始めたところで、次のアクティビティでは、アフガニスタン、バングラデシュの2か国の市民が震災支援にどのように動いたかを紹介した記事を読んで、驚いたこと、新しく気づいたことなどを話し合ってもらった。

後半は、この世界からの支援を受け、国際協力の手法を使って実施することができたプロジェクトの一つ、当団体の「キャッシュ・フォー・ワーク」をパワーポイントやビデオを使って紹介した。

所感: ワークショップ参加が初めてという方も半分くらいおられたが、資料もよく整っているワークショップなので、いざ大災害に遭遇したときに世界から寄せられる支援によって力づけられることの有難さ、それゆえに私たち日本の市民も国際協力を行っていかなければということのみなさんと共有できてよかった。



【支援表明国・地域を表した世界地図】

(2) 東北応援ワークショップ「今、必要とされるリーダーシップとは」

当日は Facebook 等を通じて学生、社会人、NPO 関係他 26 名の方にご参加いただき、大変

盛況だった。このワークショップでは、「リーダーシップ」に重点を置いてほしいという主催者側からのリクエストだったので、まず始めに約 1 時間、パワーポイントを使って、震災発生時から今日まで、その時々で当団体がどのように状況を分析し、判断し、どのように動いてきたかを時系列で紹介した。「なぜ支援を開始したのか」「どうやって始めたか」「何をやってはいけないか」等。また、参加者にも能動的に考えてもらう時間として、「下着 3000 枚という要請があったら、あなたはどうしますか」等の練習問題も途中ではさんだ。

主催者の感想「IVY の東日本大震災支援における迅速な判断と行動力に感銘を受けました。被災地で刻々と変わる支援ニーズの変化、支援に際しての人のマネジメント、物資、資金調達のご苦労、マスコミ対策等々沢山のことをお話頂きましたが、自分たちのコミュニティに関わることとして、東北に学ぶべきことがまだまだ多くあると感じました。後半は、東日本大震災の支援活動を行っている、学生 3 団体が活動報告。どれも、思いが伝わってくる素晴らしい内容で、大変頼もしく思うと伴に大人も頑張らなくてはいという気にさせられました。」

所感: これまでは単に活動報告をすることが多かったが、次の災害で生かすという視点で自分たちが体験してきたことのポイントをまとめ、遠く離れた地域の人々とも共有することの重要性を実感した。国内はもとより海外でも災害発生時には駆けつけられるような団体が育っていくとよいと思う。

8. 交通費:

1) 交通費: 69,660円

① JR山形駅～仙台空港: 片道 1,680円 × 2 = 3,360円

② 全日空 仙台空港～福岡空港 往路21,900円 復路43,500円 計65,400円

11月10日(土) ANA3182 仙台(08:00) - 福岡(10:10) 普通席 旅割 28B

11月11日(日) ANA3187 福岡(19:00) - 仙台(20:40) 普通席 普通運賃

③ 福岡空港～天神駅片道250円 × 2回 = 500円、天神駅～博多駅(ホテル～会場): 片道 200円 × 2回 = 400円、計900円

2) 開催場所までの距離: 1535km

3) 用務に(移動等を含む)に要した時間: 27時間(用務17時間、移動10時間)

9. 日当: 2,200円

10. 宿泊費: 1泊 6,500円(博多グリーンホテル)

添付:



地球市民どんたく 入り口



会場内の様子



WS「世界からの援助」グループ討議



世界からの援助&国際協力の手法で実施した事業の紹介



そらまめ主催ワークショップでのプレゼン



自らの震災活動を紹介する地元の大学生

平成 24 年 12 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子 印

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名:「世界の踊りフェスティバル」

【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名:林知美

2. 依頼元／主催等団体名:「世界の踊りフェスティバル」

3. 実施日時:平成 23 年 11 月 23 日(金)11 時 00 分～17 時 00 分

4. 実施場所:アスティとくしま・徳島県立産業観光交流センター(徳島県山城町東傍示 1)

5. 参加人数:国際交流関係のボランティアに興味のある市民・企業・NPO 団体 2 万名

6. 実施概要:

「世界の踊りフェスティバル」は、徳島県と交流の深い 3 か国(ドイツ、中国、韓国)から舞踊団体等を招聘し、それぞれの特色ある踊りの披露などを通じて、相互理解や友好交流を一層深めること、市民の国際交流に対する意識や理解を深めるとともに、国際協力・交流団体の活動を PR することなどを目的として開催している。松山市内・近辺で活動する国際交流・協力団体の活動紹介を行った。国際協力・交流活動、ネットワーク・中間支援に興味を持つ方からの相談が多く、当団体の経験を活かした個別対応をするとともに、交流会に出展している他団体と連携してそれぞれのニーズに合わせた対応を行った。以下は当日行った相談対応の内容である。

- ① 男性・NPO:アフリカ太鼓奏者を招いてのコンサート広報協力依頼。また、コンサート時にアフリカの商品を販売したいとの相談があり、徳島県内のアフリカ支援団体や青年海外協力隊経験者を紹介した。
- ② 女性・青年海外協力隊OB:マラウイで 2 年間活動していた。製作した孤児院の商品を持って帰ってきたがなかなか日本で販売するのは難しい。商品開発や販路について相談があり、出店できるイベントの紹介や当団体のバナナペーパー商品等、デザイン製・質について意見交換した。
- ③ 女性・NPO:お世話をしてきていた教員が関われなくなり、ユースの活動がストップしてしまっている。若いメンバーを増やしたいと考えていると相談があり、徳島文理大学の国際協力サークルを紹介し、イベント時に手伝う等の連携について意見交換した。
- ④ 女性・学生団体:新しいメンバーになり、改めてフェアトレードや国際協力についての勉強会をしたいと考えている。NGO相談員出張サービスの活用や取り扱っているフェアトレード商品(四国内のNGOの方)を招いて講演会と企画してはどうかなど意見交換した。
- ⑤ 男性・NPO:東日本大震災以降、何かタイと東北のためにできることはないかと考え、東北の子どもたち

をタイヘスタディツアー(交流)で一緒に行くプロジェクトを開始した。タイ側からも今までお世話になってきた日本の人たちのために何かできることがあることがうれしいと言ってもらっており、実現に向けて動いている。資金調達のための広報協力をお願いしたいと相談があり、対象となる助成金について紹介した。

- ⑥ 男性・教員: DEARのメーリングリストで活発な様子は拝見しているが具体的にどのような活動をしているのか、当団体の活動、四国NGOネットワークについて紹介した。



活動紹介、相談対応の様子

以上